

日本建築学会北海道支部 2002年度 通常総会
----------------------------

日時 2002年5月17日(金)  
会場 北方圏センター国際会議場

---

日本建築学会北海道支部

## 日本建築学会北海道支部 2002 年度総会議案

### 2001 年度事業報告

#### 1．支部運営の諸会合の開催

##### 総会

期日 2001 年 5 月 18 日

会場 北方圏センター国際会議場

出席正会員 35 名（委任状 27 通）

当支部地域在住正会員 1,072 名の 30 分の 1、35 名以上の出席により成立  
2000 年度事業報告および収支決算、ならびに 2001 年度事業計画方針案および予算案を  
審議し、異議なく可決承認された。

##### 常議員会

7 回開催

##### 常任幹事会

5 回開催

##### 選挙管理委員会

1 回開催

#### 2．学術系委員会の活動

##### 2.1 学術委員会（委員長：絵内 正道君 委員18名 委員会開催数 4 回）

主要な報告事項と議題を以下に要約する。

第 1 回目：各専門委員会、特定課題研究委員会の活動計画・予算配分

(6 月 6 日) 研究発表実行委員会の予定、建築文化週間の実施計画

第 2 回目：研究発表会の反省と課題、建築文化週間の実施報告、学術委員会規定の見直し

(9 月 19 日) 次年度建築文化週間企画・特定課題研究委員会の募集、大賞候補者推薦

第 3 回目：学術委員会規定の見直し、支部研究発表会募集要項、支部企画国際フォーラム

(12 月 19 日) 特色ある支部活動支部推薦、家協会合同企画テーマ募集、大賞候補者推薦

第 4 回目：規定の見直し、来年度事業計画・予算案、支部研のあり方検討WG中間報告

(2 月 20 日) 次年度建築文化週間課題・特定課題研究委員会の選考、次期委員会構成の確認  
支部企画国際フォーラム “積雪寒冷気候に対応した都市のデザイン”

開催日：2 月 11 日 開催場所：北海道大学学術交流会館、参加者 71 名

- ・冬のイベント { 雪と寒さとわが街 } ポスター展
- ・事例報告 伊藤和博、西田篤正、野口孝博、川治正則 ( 司会 / 長谷川寿夫 )
- ・P D 小林英嗣、荒谷登、辻博司、松橋勉 ( 司会 / 絵内正道 )
- ・基調講演 Norman Pressman, Annie Lutgten ( 司会 / 松村博文 )

##### 2.2 専門委員会の活動

材料施工専門委員会（主査 吉野 利幸君 委員 23 名 委員会開催数 6 回）

本年度は、専門委員会を 2 ヶ月に一回の割合で、合計 6 回開催した。委員会では、本部材料施工本委員会などの各種委員会報告や諮問事項についての検討、材料施工に関する情報や意見の交換を行った。また、興味ある話題や今日的な話題について各委員から提供を受けた。

2001 年 4 月 18 日には、CFT 工法、逆打ち工法、新地下工法など道内では例の少ない施工法を採用した札幌駅南口総合開発ビル施工現場の見学会を行い、33 名の参加があった。また、8 月 21 日には、高強度コンクリートと高強度鉄筋、柱・梁・スラブに PCa 部材を使用した 30 階建高層住宅施工現場の見学会を行い、21 名の参加があった。

道内巡回講演会は 2001 年 11 月 19 日に名寄光凌高校に赴き、建築科生徒 1～3 年生 81 名を対象に「超高層 RC 住宅施工について」との演題で講演を行った。

構造専門委員会（主査：武田 寛君 委員 19名 委員会開催数 4回）

- ・ トロハ展について： 粉川委員からトロハ展を開催したいとの要請があった。構造専門委員会が主体とならず、別に発起人会を組織することにし、構造専門委員会は協力する。開催は2002年6月22日(土)～7月7日(日)の16日間で白石区の青少年科学館を会場とする。そのなかのチャレンジ展は建築文化週間の行事とすることにし、日本建築学会北海道支部主催とすることにした。
- ・ 見学会について： 9月29日(土)に開催した。旭川市内の北海道立林産試験場と北海道立寒地住宅都市研究所の新庁舎を見学。北海道外断熱建築協会と共催で行った。参加者は24名。
- ・ 勉強会について： 都市防災委員の麻里、高井両委員に「地盤震動研究から見た限界耐力計算の評価と課題」についての勉強会を行った。
- ・ 合同委員会について： 構造専門委員会と都市防災委員会の合同委員会を年に数回開催することにした。

環境工学専門委員会（主査：福島 明君 委員 27名 委員会開催数 4回）

今年度、委員会の運営方法をめぐって小人数での検討委員会2回を経て、全体委員会2回を開催した。検討内容は、以下のとおりである。

- 1) 検討委員会： 検討委員会は、支部長から諮問のあった委員数ならびにその使命、運営方法等について検討した。
- 2) 全体会議： 全体会議は、2001年12月10日および2002年3月4日の2回開催した。VOC対策とまちづくりに係る活動を進める事が提案され、2002年度引き続き検討することになった。また、特定課題研究委員会申請の内容を協議し、以下の2課題を申請した。
  - ・ 積雪地における昼光利用を考慮した建築外皮の研究：主査 斎藤雅也君
  - ・ 北海道における住宅のIエネルギー消費と省エネルギーの方向性に関する研究：主査 藤原陽三君支部研究発表会への対応を協議し、C原稿に対してテーマ設定の上、投稿を呼びかける事にした。設定テーマは、循環型建築技術である。
- 3) 見学会： 2001年11月12日、北海道立寒地住宅都市研究所の新庁舎の現場見学会（設備を中心として）を開催した。参加者は、定員を越える50名となり、多くの申し込みを断る結果になった。竣工後再度見学会を開催する方向で検討を行うことになった。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 22名 委員会開催数 3回）

2000年度までの分科会方式の委員会運営を改め、個々の研究者や実務者が抱える個別の課題領域に偏らない統一的なテーマの下に活動ができないか議論した。個々の研究や実践のあり方については、その道の考え方を尊重しつつ、学会の活動として、それらを社会還元に導く一定の方途が今日のテクノロジーを背景に見出せるのではないかということについて広く意見交換を行った。市民生活、特に地域の住民と建築との接点に焦点を当て、計画や設計の事例を広く取材し、整理するとともに、単なる研究成果に止まらない、むしろ生きた参考データ集として、オープンにしていく必要があるとの判断である。議論の内容は、「建築計画を展望する（仮題）」という小論集にまとめ、ホームページ上に公開する予定である。

都市計画専門委員会（主査：瀬戸口 剛君 委員数 17名 委員会開催数 3回）

都市計画委員会は、地方都市における中心市街地の活性化や住民参加による地区改善プログラムなどをテーマとして研究会活動を行った。研究会は学会委員会メンバーに限定せず、学会外を交えて広かれた研究会活動を行っている。2001年度の主な研究会は以下の3つである。

<研究会1> 2001/6/22pm600-900：「アメリカ中小都市での中心市街地活性化 - Main Street Programの取り組み -」（講演：瀬戸口剛）（場所：学会北海道支部，参加45名）

<シンポジウム> 2002/1/24pm600-900：「まちなか住まいを考えるシンポジウム - 第4回 -」（場所：地下街A P I A，主催：札幌市役所，参加約50名）-北海道新聞など取材-

<研究会2> 2002/1/25pm600-830：「サンフランシスコの住民参加による地区改善プログラム」および意見交換（講演：瀬戸口剛）（場所：北海道大学，参加36名）

歴史意匠専門委員会（主査：伊藤 寛君 委員 18名 委員会開催数 5回）

2001年度も、道内各地における歴史的建造物の現状把握と発掘、および保存・活用に関する情報交換を積極的に行い、社会や住民へ広く貢献することを目標に活動を行った。委託研究として、「カトリック北一条教会司祭館」の構造診断と活用方法について調査報告書をまとめ、増毛町立増毛小学校校舎の保存要望等にも関わった。建築文化週間企画として、「建築散歩 - おびひろ編 - 親子で巡る歴史的建造物の見学会」を6月23日(土)に開催し、好天に恵まれ26名の参加があった。9月2日に急逝した釧路出身の建築家毛綱毅曠の追悼シンポジウムを12月1日(土)に道立釧路芸術館アートホールで開催し、パネラーとして足立裕司氏、渡辺豊和氏、藤塚光政氏、越野武氏の4名を招き、約200名の市民の参加があった。道内工業高校巡回講演会では、北見工業高等学校において水野委員が「近代建築の材料史を読む」の演題で講演を行った。

北方系住宅専門委員会 (主査:長谷川寿夫君 委員21名 委員会開催数7回)

この2年間、持続可能な成長と社会を主題として、その具体像・ライフスタイルを探るための討議を行ってきたが、これらについて各委員が新しい成長への出発、持続可能な成長への提案として執筆し、2002年1月に小冊子「雪休日の楽しみ - 良さ発見型の成長へ - 」(A4判70頁)に取りまとめた。

また、委員会の今後の研究内容を討議し、テーマとして上がった「地球環境を考えた取り組み」、「北の新しいライフスタイル」、「住宅の建て替え実態調査」、「社会資産としての住居の育成に向けて」、「徒歩生活圏のまちづくり」等について、具体的な研究の進め方をそれぞれ検討した。

支部学術委員会との共同申請で、北海道支部主催として国際フォーラム「積雪寒冷気候に対応した都市のデザイン」を2002年2月11日に北海道大学学術交流会館にて開催し、70名余の参加があった。

都市防災専門委員会 (主査:岡田 成幸君 委員18名 委員会開催数8回<その他に幹事会・通信委員会・WG会合がある>)

#### 1) 常設WG

イベント企画WGによる巡回講演会(地震に強い住まいづくり~木造住宅の耐震設計)、同WGと見学会企画WGによる次年度支部研究発表会特別企画案「有珠の災害現場を歩く~2000年有珠山噴火の被害状況及び火口の見学会」の採用、広報WGによる当委員会のHPの更新(6回)などが主な活動である。

#### 2) 研究的WG

有珠火山噴火調査WGは同噴火による被害地調査を実施し、住家被害の概要報告が「日本建築学会技術報告集14号(2001年12月)」に掲載された。

#### 3) 情報交換ネットワーク

1999年度に構築された情報交換ネットにより、ニューヨーク世界貿易センタービル崩壊に関する調査情報を収集・発信、2002年2月のトルコ・スルタンダギ地震について情報収集・HPによる公開を行った。支部構造専門委員会と合同研究会を開催した。

### 2.3 特定課題研究委員会の実施

コンクリートの調合設計研究委員会(主査:千歩 修君 委員数13人 委員会開催数7回)

本研究委員会では、1997年版JASS5および1998年版寒中指針に対応した「コンクリート調合計画・管理支援システム」を汎用的なパソコンソフトであるAccessのプログラムとして作成した。また、本委員会で作製したシステムを(社)北海道建設業協会および(社)日本建築構造技術者協会北海道支部主催の寒中コンクリート講習会でそれぞれ紹介し、モニター版を配付して、実務担当者に試用してもらうことにより、その結果を最終成果物に反映させた。

その他、第2回ジョイントセミナーA&JでもJIA会員に対して本システムの紹介を行なった。なお、2002年度のAIJ大会および支部研究発表会で、本研究委員会の成果を発表するとともに、技術報告集で成果を公表する予定である。

建築のエネルギー消費調査研究委員会(主査:羽山 広文君 委員16名 委員会開催数3回)  
建築分野の省エネルギーは、省資源ばかりではなく、地球温暖化対策としても意義がある。本

研究委員会では、北海道地方における事業用建物（事務所、学校、病院）で消費される各種エネルギー消費量を調査・分析し、エネルギー消費原単位を作成するとともに、各種エネルギーの消費構造を明らかにし、北海道地方に相応しい省エネルギー対策、建築計画および建築設備計画の提案を行った。2001年度は、札幌市の小学校209校、中学校91校、全道の高校32校におけるエネルギー消費量の調査と分析を行った。2000年度に調査した事務所、病院の結果を統合し、札幌市におけるエネルギー消費構造を明らかにした。研究成果の一部は日本建築学会学術講演会、空気調和衛生工学会学術講演会で発表した。これらの成果を報告書としてまとめた。

自動車に依存しない都市像研究委員会（主査：大柳 佳紀君 委員数10名 委員会開催数4回）  
研究内容は、便利さ、新しさ、快適さを求めて、思い通りに人間を取り巻く外界を変えてきた高度成長のなかで見失われてきた、共有の富に焦点を当てつつ持続可能な社会を実現していくために、環境・交通・物流を考えた自動車に過度に依存しない社会を考えることである。生活者優先と歩車共存の方針と考え方を基本とし、現代都市社会の共有の富と、現代の車優先社会を海外の事例を含め検討した。今後は、フォーラムの開催を含めて市民向けに発信する予定である。

建築鉄骨技術教育研究委員会（主査：田沼 吉伸君 委員6名 委員会開催数3回）  
当委員会の2001年度の活動を以下に示す。

- 1) 鉄骨建築の立体的理解と基本的接合法である溶接および高力ボルト接合の理解を得る目的で鉄骨建築の最も重要な接合部である柱梁接合部と柱脚接合部の模型教材を設計製作した。
- 2) 鉄骨技術教育の副読本の編集作業を行うための基本的な鉄骨施工の写真を収集した。この中には、積雪寒冷地における施工方法も含まれている。
- 3) 上記、1)、2)の教材を用いた授業を行う際の生徒へのアンケート項目の検討を行った。
- 4) 鉄骨製作工場の見学研修の受け入れの可能性について、関連団体である(社)北海道機械工業会鉄骨部会に当委員会として検討を依頼し、ヘルメット等の工場見学に必要な物品は業界として道内各工場に配備するとの内諾を得た。
- 5) 道内の工業高校の建築科理事会に委員1名が出席し、当委員会の活動状況を説明し協力を依頼した。その結果、2002年5月に函館で開催予定の常任理事会で、主査から協力を依頼することとなった。

## 2.4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

旧師団施設調査研究委員会（主査：川島 洋一君 委員8名 委員会開催数4回）  
当委員会の目的は明治32年旭川に設営された旧第7師団の施設を保存されている資料や現存建物の建築状況を明らかにして北海道の近代建築史の一部を明らかにする事である。

本年度の研究活動としては現陸上自衛隊帯広駐屯地内で旧帯広航空隊施設の現存する木造平家2棟の実測調査を行い平面・立面・断面及び一部小屋組図を作成し建築技術としての特徴について考察した。また同駐屯地の道東史料館での旧軍関係の資料収集を実施したが建物に直接的な資料は少ないが写真集や連隊史等を収集した。

また現釧路自衛隊内の資料館大平原で同様に資料収集を行い、同時に展示されていた兵舎配置模型の縮尺をあわせた復元平面図を作成し、数棟の兵舎の位置関係や各建物の機能について考察を行った。この研究成果は、2002年度の支部研究発表会で公表する予定である。

## 2.5 本部特別企画事業費「特色ある支部活動」による研究の実施

ロシア極東地域の戸建て住宅建設に関わる北海道の寒冷地技術適用の可能性（主査：大垣直明君 委員8名）

この調査研究は、日本建築学会の本部が助成する「特色ある支部研究活動」の一環として行われたもので、北海道で独自に開発された「北方型住宅」が、同じ寒冷地であるロシア極東地域で、どのくらい適用の可能性があるかを調査したものである。調査は、ロシア極東の拠点都市ハバロフスク市を対象に行った。ハバロフスク地方行政政府やハバロフスク市役所へのヒアリング、ハバロフスクであらゆる設計業務を行っている設計事務所へのヒアリング、戸建て住宅を実際に建設

している建設企業へのヒアリングおよび戸建て住宅建設現場の視察、戸建て住宅居住者へのインタビューなど、多くの調査を精力的に行った。また資料として、ロシアの統計や「SniP（スニープ）」（ロシア建設基準および諸規則）を用いて考察を行っている。

調査研究の結果、北海道とロシア極東地域は同じ寒冷地の気候条件ではあるものの、いままで培われてきた住文化の違いから、当地において北方型住宅を適用するために乗り越えなければならない課題が明らかになった。その具体的な内容は第5章に示している。

ロシア極東地域において、戸建て住宅の建設は徐々にではあるが普及し始めており、将来的に北方型住宅の技術が活かされる可能性は大きい。実際、カナダ政府はハバロフスク市内の戸建て住宅地にモデル住宅を建てて、カナダ製の高断熱住宅の普及を図っている。今後、北海道とロシア極東地域の間で研究交流や技術交流が盛んになることを期待したい。

報告書は以下の構成である。第1章ロシア極東ハバロフスクの概要 / 第2章ロシアハバロフスクの住宅 / 第3章ハバロフスクにおける戸建て住宅の建設プロセス / 第4章戸建て住宅の建設技術に関する北海道とロシアの比較 / 第5章ロシア極東への北方型住宅適用に関して克服すべき課題。

### 3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会（代表者）	委託者
2001.7.26	カトリック北1条教会司祭館調査業務	歴史意匠専門委員会 （主査 伊藤寛君）	北1条カトリック教会
2001.8.1	北海道百年記念塔第3次保守管理策定業務	開拓記念塔第3次保守管理策定委員会（主査 柴田拓二君）	北海道野幌森林公園

#### 受託の概要

- (1) カトリック北一条教会司祭館調査業務（受託金額：500,000円）  
カトリック北一条教会司祭館を信徒会館に改修するに伴い、当該建物の現況と沿革調査、改修工事に伴う構造耐力度調査、補強方法の提案などについて調査した。
- (2) 北海道百年記念塔第3次保守管理策定業務（受託金額：1,350,300円）  
塔内外の諸部位の状態を把握する総合的な調査、1999年度の改修工事後の検証、工事報告書に述べられている今後の指摘事項の対応について調査した。

#### 4. 研究発表会の実施（主査：桜井 修次君 委員数19名 委員会開催数6回）

周知のように第73回支部研究発表会（北海道東海大学、2000年7月1日～2日開催）から、開催期日が従前の3月下旬から6月下旬～7月上旬へ変更された。このため、この委員会活動は、他の委員会とは異なり年度にまたがることになった。2001年度の委員の任期としては、2000年7月3日（第73回研究発表会翌日）～2001年7月1日（第74回発表会最終日）である。以下の報告は、上記の期間における委員会活動である。

- 1) 第74回支部研究発表会日程と会場の決定  
（2001年6月30日、7月1日、北海道大学工学部）
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の確認、決定
- 3) 論文執筆要領の作成と原稿募集記事の建築雑誌掲載および原稿募集事業の実施
- 4) 特別企画のテーマ募集事業の実施および特別企画テーマの選定
- 5) 論文原稿の受付・編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成および建築雑誌掲載記事の手配
- 6) 第74回支部研究発表会の実施  
投稿原稿総数 112 篇（A原稿：81、B原稿：22、C原稿：7、D原稿：2）

## 5 . 表彰

### 5 . 1 北海道建築賞

( 1 ) 北海道建築賞委員会の活動 ( 主査 : 小林 英嗣君 委員 8 名 委員会開催数 5 回 うち現地審査 3 回 )

本委員会は北海道支部の表彰制度の設立と同時に 1975 年に設けられた委員会であるが、2001 年度の建築賞の選考は、昨年度と同様に建築作品を支える「先進性」、「規範性」そして「洗練度」に基づいて行われた。この 3 つの視点の存在とその明快さが学会が行う建築賞の特徴であることが再確認され、且つおのおのが一定水準以上の内容であることが必要不可欠であるとの判断に基づき、長時間の熱心な議論を伴いながら、かつ慎重に選考が行われた。選考の結果、北海道建築賞として「札幌ドームの設計」( 原広司君・原広司 + アトリエ・ファイ建築研究所 )、「遠友学舎の設計」( 小篠隆生君・北海道大学、渡邊広明君・アトリエアク ) を本年度の授賞対象とした。委員会における選考の経緯ならびに対象となった作品概要と委員会の講評をリーフレットとして取りまとめて公表する。

主査 : 小林 英嗣君 委員 : 伊藤 大介君 大垣 直明君 大萱 昭芳君 後藤 達也君 笹野 尚明君 中井 仁実君 吉田 宏君

( 2 ) 受賞者

北海道建築賞 原 広司君 ( 原広司 + アトリエ・ファイ建築研究所 )

作品名 - 「札幌ドーム」の設計

北海道建築賞 小篠 隆生君 ( 北海道大学大学院工学研究科 )

渡邊 広明君 ( アトリエアク )

作品名 - 「遠友学舎」の設計

( 3 ) 審査経緯

本年度の審査の対象作品は、応募作品が 7 点、建築作品発表会発表作品から 10 点、計 17 点とした。第 1 回審査会では中井委員を除く全メンバー参加のもとで開催され、昨年の委員会の経緯・審査の視点について意見交換を行い、今年度の審査方針を確認した。その後、書類選考によって審査が開始され、審査委員の推挙作品と推挙の理由に関する討論を経て、現地審査の対象とすべき候補を 7 点に絞り込んだ。

応募作品からは、遠友学舎 ( 小林研究室 + アトリエアク ) /、作品発表会からは、奥尻町津波館 ( アトリエブク ) / 標茶町虹別オートキャンプ場 ( アーブ建築研究所 ) / 矩形の森 ( 五十嵐淳建築設計 ) / 道立ゆめの森公園 ( ブク・環境設計・今井設計共同企業体 ) / ー ( かね ) ( ナカヤマ・アーキテクト ) / 札幌ドーム ( 原広司 + アトリエ・ファイ建築研究所、アトリエブク特定共同企業体 ) / の 7 点であり、北海道建築の新たな地平を予兆させる建築作品も含まれていたが、建築としての意味や役割は多様であった。デザイン習作として捉えるべき建築、作品の建築、地域コミュニティの基盤や資産としての建築、地域社会の商品としての建築などである。しかし、今年度の建築賞委員会でも、これまでの選考の視点を崩さずに、「計画理論や設計・デザイン」に対する「ラディカルな追求」、加え、それらの「社会性」と「規範性」、を建築学会が優先させるべき価値とし、「新鮮、ラディカル、そして洗練への努力」を共通価値として、北海道建築賞の選考と審査を進めること、また候補作品は全て複数の委員が現地審査を行うという原則も了承され、審査が開始された。その後、全ての候補作品の現地審査完了を確認し、最終選考の委員会を開催した。それぞれの建築について、建築作品の特徴と評価すべき内容、設計や計画のプログラムとコンセプト、デザイン性を支えている論理性の今日的な意味などについての議論が展開された。単なる機能性や空間性や形態などの表層的な意匠や造形にとどまらず、それらを生み出した建築家の視座、プログラムや方法論、そしてその完成度や社会性などをめぐる意見が長時間にわたって交換され、委員の情緒や感性、そして建築的面白さや好みに基づいた曖昧な議論ではなかったことを報告しておく。

「遠友学舎」は、新渡戸稲造らによる「遠友夜学校」の精神を受け継いだ大学の集会施設であり、その計画とデザインの質とそのプログラム性、空間性と構造的の合理、加えて周辺の歴史的・自然的環境との共生への姿勢と北海道建築の原型を探ろうとする姿勢について高く評価できるという共通の見解となった。「奥尻津波館」は、不幸な災害のメモリアルとしての役割を求められた建築であるが為、建築の自己性を強く意識しており、内部空間構成や展示の饒舌さに比して、広大な自然環境（災害現場である海）との対話や周辺や人間を広く包み込む環境デザイン的な配慮には課題を残しているという共通の評価となった。「標茶町虹別オートキャンプ場」は、自然環境の保全と風景に馴染んだ静かな佇まいの形成を目指した群建築であるが、個別の建築においても求められるべき空間性や構成論については新たな挑戦と洗練への姿勢が欠けているという共通の評価となった。「矩形の森」は、若い建築家のライフスタイルを地域に普及しているローコストな建築資材を巧妙に用いて、包み込んだ住まいであり、環境技術とリンクしたいいわゆるこれまでの北海道的住宅にはない心地よい空間性と果敢な挑戦を評価したが、習作の域を出ていない物足りなさの存在が評価の分かれ目であった。「道立ゆめの森公園」は、利用圏域の広い道東コミュニティの拠点であり、その中の施設を審査の対象としたが、形態の特異性のみを強調する姿勢と判断は、地域の風景論から、加えて公共建築であるがゆえのコストとベネフィットからも問題を含んでいるという共通の評価となった。「一（かね）」は急峻な斜面と風景の特性を読み取り、プライマリー建築を指向しつつ、環境への同化を試みた住宅であり、北海道型住宅の新しい原点探しといえる試みは評価出来るが、プライマリー建築にこそ求められる構造計画と形態化、そして空間性の間の洗練された合理性については多くの疑問が残った作品であった。「札幌ドーム」は、ドームという巨大建築ゆえに希求されるべき風景と建築形態の相克、構造計画と建築デザインの研ぎ澄まされた論理性と合理性、建築の計画性とデザイン性についての設計者の意思とそれを取巻く他者との闘いと協働との中から生まれてきた作品であり、近代建築の最も正統である構造と形態、そして素材の論理を正則に基づいて駆使しているとの評価を共有化した。

審査委員会では、選考の基準が「これからの北海道建築の地平を示唆しうる社会性と規範性」加えて「合理と論理、ラディカル、そして洗練への努力」であることを再確認し、「遠友学舎」と「札幌ドーム」について、「卓越した建築力と建築理論そしてデザイン技術によって、完成度の高い建築作品としてまとめ上げているという」、評価にあたった委員一致の見解のもとで、北海道建築賞（本賞）にふさわしいという結論を得た。（なお、最終審査選考では、関係者である委員は退席し、審査を行っているのは言うまでもない）

文末ではありますが、今回の最終審査の直前に委員である中井仁実君がご逝去されましたが、これまでの審査における建築の明快な視点やデザインの洗練性についての鋭い眼差しを想いだしつつ、全員でご冥福をお祈りし、審査を継続したことを付け加えておきます。

（文責：北海道建築賞委員会・小林英嗣）

#### （４）審査講評

##### 北海道建築賞 「札幌ドーム」

この建物の立地する環境は、ゆるやかな起伏をもつ札幌扇状地へ特徴が実感でき、風致地区の網がかかる広大な広がりの中にありながら、国道沿いの喧騒とし、やや混乱した郊外市街地、そして閑静で古い計画的な住宅地が会う、特殊な状況下にある。しかも、札幌市の長期計画では高次都市機能拠点として位置づけられており、周辺の状況が大きく変容する可能性が極めて高い地区でもある。

この空間的そして時間的なクロスポイントに立地するこの建築からは、マクロスケールからメゾ、ミクロへと連続する風景性と空間性、素材感と知覚・身体感覚、抑制されながら明快な主張を持つ象徴的形象とディテールにおける入念な論理性を強く感じる。また、これらを支える概念「clopen」は、建築そのものの構造的と空間性を紡ぐだけでなく、マクロからミクロへの環境性、土地の明快な歴史・履歴と予測困難な将来を時間的な意味でも繋ぎとめることが出来た広義の論理である。

モダニストとして（作者は嫌われるかもしれないが）正則としての理論性、正統的な空間構成論と構造論とに正面から向かい合っ取り組み、そしてオリジナルな建築言語にもとづいて、環境とクライアントが求める複雑で多様な要求を満たしつつ、かつ地域の特性や与えられた敷地形



状や微気候などの固有の環境に誠実かつ提案的に対応した、高次の作品である。正則の近代建築理論そして高度のエンジニアリングに基づいた洗練され完成度の高い建築が、20世紀末から21世紀の初頭にかけて、北海道の公共建築において結実したことは、技術性能主義や物理環境主義と、地域性・風土性なる免罪符的な概念に依存してきたこれまでの北海道建築の状況（公的クライアントと設計者の閉塞的でマンネリ的な関係）を深くそして自省的に考えるならば、非常に意味深い内容と背景を見てとることが出来る。

「新鮮、ラディカルそして洗練」へのメッセージを強烈に発信する作者の姿勢と意思は魅力的である。言語でのみ建築を語り、かすかな記憶のみを頼りながら郷愁と地域性を嘗め回すような建築言語に固執する北海道的？建築論のみが跋扈するマンネリ風潮の中で、モダニズムの正道を歩みつつ、‘関係としての建築’から離陸し、21世紀のホリスティックな‘環境としての建築’を支えるべき建築理論の地平を希求しようとする作者の姿勢は意味深い。

バブル期とそれ以降、着膨れた変則的近代建築と地域・風土依存への表層的な志向性（ブランド化？）の蔓延とクライアントと設計者のぬるま湯的な関係によって生まれた建築によって、北海道の風景と街並みは崩壊した。建築設計者の責任は大きい。

この作品は、20世紀初頭に確立されたヒューマニズムとエンジニアに基づいた建築理論の成果を再確認し、改めて仕切り直しを行いつつ、美しい北の国の姿の再生を求めつるべき現在、ふさわしい作品であり、作者の哲学である。（文責：小林英嗣）

#### 北海道建築賞 「遠友学舎」

遠友学舎は、広い北大構内の北端、第2農場のバーン建築の傍らに、楚々とした姿で佇んでいる。背面には密集した住宅地が押し寄せて、雑然とした都市風景が存在しているのであるが、それらを隠すように切妻の大屋根が、東西軸上に伸び、北大構内側から見ると、スケール感のある大屋根の平面が水平に展開し、バーン建築と共に、緑苑のエッジにふさわしい景観を形成している。明治初頭（途中移築されているが）に建てられたバーン建築と、世紀を隔てて建てられたこの遠友学舎との呼応の仕方は、二つの建築とも、風土に対する素形への希求という、共通の根を持つことによって妙なるものへとなっている。

大屋根の架構が、バーン建築ではバルーンフレーム（後世トラスで補強してあるが）架構によるのに対して、遠友学舎では、集成材の大梁と張弦による架構で形成されている。設計与件としては、特定のプログラムが与えられなかったと聞くと、多様なプログラムを吸収すべき、ユニヴァーサルスペースへの造形に、この始原への遡行ともいべきざっくりとした切妻の単純な架構と形態を提示した、作者の大胆さと同時に謹み深さに深く敬意を表したい。

内部の軽快な可動間仕切のスキルや、的を得た素材の選択によってもたされる、柔らかで、親密感のある空間を評価することは敢えて避けたい。それを評価することは、この建築の提示された意味を矮小化する恐れがある。

現代の建築技術は、多様な表現形態を可能にする。その中で、風土における素形というべきものを再度見詰め直し、一方で、様々な現代での環境技術の先端への試みを凝縮させようとした、作者の狙いが、この建築を実在のスケール以上に大きなスケールをもつ存在としていることを高く評価するものである。（文責：後藤達也）

## 5.2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

### （1）受賞者

#### 大学の部（応募作品数14点）

- ・銀賞 田根 剛 君： 北海道東海大学芸術工学部建築学科  
作品名 空気のような建築 新たなる設計方法論
- ・銀賞 佐竹 俊彦 君： 北海学園大学工学部建築工学科  
作品名 記憶の中継点
- ・銅賞 石井 旭 君： 北海道大学工学部建築都市学科  
作品名 建築/地形 Eco-Museum in Harutori Lake
- ・銅賞 目黒 祥久 君： 北海学園大学工学部建築工学科

作品名 overflow

**短大・高専・専門学校**の部（応募作品数6点）

- ・銀賞 清水 朋子 君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科建築コース  
作品名 SHELTER for WOMEN 札幌女性相談援助センター
- ・銀賞 鈴木 千穂 君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科建築コース  
作品名 Invitation to Healing～癒しへの招待～
- ・銅賞 尾形 郁恵 君：北海道職業能力開発大学校建築科  
作品名 もうひとつの生活空間～銭函海岸再生計画～

**工業高校**の部（応募作品数11点）

- ・金賞 新保 知恵君、木村 恭子君、工藤 広呂香君：北海道札幌工業高等学校建築科  
作品名 MONKEY PUNCH MEMORIAL MUSEUM
- ・銀賞 加藤 脩君：北海道美唄工業高等学校建築科  
作品名 Community Center 運動公園センターハウス
- ・銅賞 定免 愛君：北海道函館工業高等学校建築科  
作品名 Star Island

(2) 卒業設計優秀作品審査委員会（主査：鳥海 良晴君 委員数7名 委員会開催数1回）  
2001年度 道内大学・短大・高専・専門学校・工高卒業設計優秀作品の審査方針を協議し、審査を実施した。また、討論により講評の論点を確認し、講評者の担当を決定した。

審査委員：井端 明男君、上遠野 克君、河原木 厚子君、斎藤 徹君、鳥海 良晴君、中山 眞琴君、若杉 博丈君

(3) 審査講評

大学の部

銀賞・田根君：

人々が寄り集まり活動する空間づくりに、興味ある計画アプローチを示した作品である。図書館や会合の場などを計画する場合、用途から空間をつくるのではなく空間のボリュームの違いに着目し、広さと高さが大小で、使い勝手に融通性のある空間の組合せによって仕立てる方法である。この廊下がなく大小の空間の通り抜けの連続の中で展開される様々な市民活動が、その空間の境界のなさによって相互にふれあい、啓発され、空気のように流動化する様子が見てとれる。建築の公共性、公開性、参加性を率直に示した提案である。ただ、空間のサイズと個数が多い提案となって、迷路のような空間の複雑さが目立ってしまった感がある点、残念である。（文責：斎藤 徹）

銀賞・佐竹君：

街の再生という今日的な問題意識に立ちながら、内部空間と街路とのインターフェースとしての装置を、人を納める棚的空間を集積する形で建築的に表現している。これらの新たなコミュニケーション・ツールとしての物理的空間群が相互にリンクしあう仕組みがより表現できたら、説得力が増したろう。CGでの表現力が平面図、立面図にも同じくらい必要です。（文責：上遠野 克）

銅賞・石井君：

釧路市春採湖に建つランドスケープ・アーキテクチャーといえるエコ・ミュージアムの提案である。

地形の読み込みからの建築形態へと発展、水平に線的に伸びる空間を詩的に作りこんでいる点でスケール感の破綻もなくうまくいっている。ただし、エコ・ミュージアムとしての施設側の、そして来訪者側のアクティビティーをどうしようとしているのかに対する説明がやや希薄で

ある。よってその答えとしての空間は読み取れず、単なる美しい観察施設で終わっているようだ。道筋を立てた説明を効果的に伝達する明快な図式を加えれば良かったのだが。

(文責：鳥海 良晴)

銅賞・目黒君：

非常にわかりやすい集合住宅である。2.5mスパンのグリッドプログラムである。特に新しい事もないが、魅力あるものに仕上がっている。「住む」という事に一石を投じていることにちがいないが、プロポーションもきれいなのだが、前置きが多すぎて、伝わらない事のほうが多かった。街区におけるルーバーの取り扱いも何かリアリティがあるし、個の住戸のばらつきもとっても心地よい、やさしい、しかも「建築」を感じられる作品となっている。

(文責：中山 眞琴)

短大・高専・専門学校の部

銀賞・清水君：

これから、社会的に求められるであろう女性への相談支援施設(ドメスティック・バイオレンスなどへの受け皿)で、設計動機は明快である。建築空間は極めて現代的な端正な意匠・構造で、軽快で透明感のある明るい建築になっている。だが、それだけで終わってしまった心的な支援は、実はドライではない空間も必要で、例えばプランを特徴づけている横断的な中庭は、ケアの場としては最適で、そこに複雑なデザインの作り込みも欲しかった。

(文責：鳥海 良晴)

銀賞・鈴木君：

ここ数年、CADによる表現が多い中、この作品はマウスとキーボードでは表現できない、微妙な手の痕跡やトーンに、改めて手で考える意味を感じた。丘陵地に建つ空間は、周りの環境に対する気遣い、風景の見せ方、空間をつなぐ回廊等、シークエンス効果はスケッチからもうかがわれる。しかし、傾斜地を生かした立体的な空間構成が見られないのが残念である。又、パーキングエリアから見下ろされることを意識したルーフデザインへの配慮も必要なのではないか。

(文責：井端 明男)

銅賞・尾形君：

雑然とした景観を呈している海岸の作業場や船置場を再整備する提案である。現況調査で発見した既存の石積壁と下見板張りを共通のデザインコードとして活用し、連棟配置の建屋の規模や間取りの違いで景観に変化をもたせている。JR線沿いの安全な通行のために設けた歩廊や、空中テラス状に海に張り出した海の家提案には、漁師の作業場とサーファーの憩いの場のために快適な生活空間をつくる姿勢があらわれている。JRの車窓からも海上からも郷愁感のある景観をつくり出しているが、海を訪れる人、漁師、サーファーたちのふれあいを誘発する生活空間の連携的で複合的な魅力づくりの提案など、今後を期待したい。

(文責：斉藤 徹)

工業高校の部

金賞・新保君、木村君、工藤君：

見た瞬間、金と思った。大学も含めて今回は金はなし。その中での金獲得である。大変な力作だ。幾何学を組み合わせ、安藤風である。しかし、問題も多く見られた。まず、MUSEUMの域を出ていないこと。新しさの提案がもう一つ欠けていること。人工池の形はこれで良いのか。列柱のピッチは荒くないか。それぞれの展示室はこれでバランスがとれているのか、等等。それでもそれを超える「何か」があった。

(文責：中山 眞琴)

銀賞・加藤君：

公民館、体育館、劇場を吹抜けのアトリウムでつないだ複合施設の計画は、動線計画もそれぞれの施設の平面計画もよく考えられた作品です。クラシカルなエレベーションを持つセンターハウスが、運動公園のアプローチ部分によくマッチしています。配置図、平面図、立

面図、パースに同じくらい力をかけてまとめあげている力作です。模型写真をもっとプレゼンテーションの中で有効に使われると、よりすばらしい作品になったと思います。

(文責:上遠野 克)

銅賞・定免君:

スターアイランドは、何かと騒がしい社会情勢の中で、一息つける作品です。五稜郭をモチーフとした水族館計画は、かつて北前船の港から世界の海と繋がり、国際都市へと急成長した町に相応しい施設だと思う。各スペースについてはアイデアとイメージをもって計画をしているようですが、配置計画は緑の島と水族館、そして海の関係について密度を高めることが必要です。内部/外部ともに空間を意識した建築的表現が出来れば、より魅力的な計画になったのではないが。

(文責:井端 明男)

### 5.3 優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

2001年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

松田 浩子君・西館 沙織君:北海道大学工学部建築都市学科  
広瀬 幸代君・南部 元君:北海学園大学工学部建築学科  
村上 太一君・蒲野 恵子君:北海道工業大学建築工学科  
菊地ゆかり君・惣蔵 潤一君:室蘭工業大学建設システム工学科  
田根 剛君・山中 政弘君:北海道東海大学芸術工学部建築学科  
野尻 正文君・荒瀬登志夫君:道都大学美術学部建築学科  
太田 隆志君・佐藤つばさ君:道都大学短期大学部建設科  
上田 輝光君・門馬 寛之君:釧路工業高等専門学校建築学科  
土佐真二郎君:北海道職業能力開発大学校建築科  
長沼 利真君:北海道立正学園旭川実業高等学校建築科  
今野 晶人君:北海道札幌工業高等学校建築科  
小山 晶央君:北海道札幌工業高等学校定時制建築科  
水谷 麦君:北海道小樽工業高等学校建築科  
島竹 由香君:北海道小樽工業高等学校定時制建築科  
深瀬 麻未君:北海道函館工業高等学校建築科  
中村 健君:北海道函館工業高等学校定時制建築科  
小島さゆり君:北海道旭川工業高等学校建築科  
佐藤 潤一君:北海道旭川工業高等学校定時制建築科  
田内 正紘君:北海道苫小牧工業高等学校建築科  
青塚 豊彦君:北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科  
相澤由美子君:北海道帯広工業高等学校建築科  
金澤 尊子君:北海道釧路工業高等学校建築科  
佐久間紀明君:北海道名寄光凌高等学校建築科  
片野 伸吾君:北海道美唄工業高等学校建築科  
武田 典明君:北海道室蘭工業高等学校建築科  
山本 雄貴君:北海道留萌千望高等学校建築科  
木村 英夫君:北海道北見工業高等学校建築科

## 6. 建築作品発表会の実施

(1) 建築作品発表会委員会(主査:小篠 隆生君 委員4名 実行委員10名 委員会開催数6回 実行委員会3回含む)

本委員会は、事業系委員会という性格上、事業的側面と学会の使命である建築を通じて社会に貢献するという中身の質的側面と2つをもつ。作品発表会も21回を迎えた本年度は、この2つの側面の両方に関わる作品集についてその方向性も含めた見直しを行った。20年間発刊を続け北海道建築界の重要な資産になった作品集をカラー化することによって、作品情報の高次化と作

品集の持つ書籍としての価値付けを行い、作品集のより一層の販促を達成し、事業収支を改善することを図った。結果として、作品集は A5 版のカラー印刷とし、ほぼ完売し、年間の赤字額を半分以下に圧縮することに成功した。

発表会自体は、コンパクトでありかつ内容の充実を図るため、午後から半日で開催するという方式に改め、年間の話題作について委員会が検討し、原広司+アトリエファイ、アトリエブクの「札幌ドーム」に対して出品を要請した。

その後、10名の実行委員を加えて、14名の実行委員会を組織した。実行委員会は、作品の受付、プログラム編成、プレフォーラムという流れに沿って3回開催し、委員会の方針を具現化するため、プログラムの決定、討論のテーマ、当日の各担当の決定などを行った。11月2日に第21回建築作品発表会を北海道立近代美術館講堂で開催、作品集VOL.21を発刊した。発表会を振り返ってそのまとめと今後の課題をその後の委員会で議論し、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」12月号と日本建築学会誌「建築雑誌」2002年2月号に小篠隆生君の論評を掲載した。

## (2) 建築作品発表会の開催

### 第21回建築作品発表会 ARCHITECTURAL FORUM IN SAPPORO

期日 2001年11月2日  
会場 北海道立近代美術館講堂  
発表作品数 28題

本年より発表会を半日開催として、午後より3部構成とし発表を行った。アトリエ・ファイ原若菜氏による「札幌ドーム」のプレゼンテーションをはじめとして、実行委員会で事前に議論の題材となりえる作品を5つ選定し、3部に引き続き議論を行った。フォーラムでは、北海道における建築と環境のあり方に対して様々な視点が提出されたことである。

参加者約500名。「北海道建築作品発表会作品集2001VOL.21」を発刊。

## 7. 特別委員会の活動

### 7.1 北海道建築教育連絡協議会(主査:眞嶋 二郎君 委員7名 委員会開催数1回)

本委員会は、本部の建築教育連絡協議会に対応する支部特別委員会として設置されている。役割は、建築教育アクリディテーションに関する学会と各大学等および各大学間の相互の情報交流の場を設け、各大学の的確な対応への情報等支援を行うことにある。2001年度はJABEEのアクリディテーション試行を行ったが、建築学・同関連分野の試行マニュアルに関して全国9支部では唯一の研究会「建築教育アクリディテーション研究会」を実施した。日時:7月25日(水)14:00-17:45、場所:北海道大学工学部社会工学系第1会議室、参加者:22名。講師は島田良一(都立大)・石川孝重(日本女子大)・眞嶋二郎(北海道大学)で、技術者教育認定の考え方と現段階および建築学分野アクリディテーションの方針と要領等(試行案)の解説と質疑応答を行った。

なお、本部は今回の試行を踏まえて、建築学分野の認定基準の改訂に取り組むことを決め、大幅な組織改編を行い、「教育認定事業委員会」を発足し、全国の連絡協議会はその傘下のメンバーリストとして残すのみとなった。2002年度も3校の試行を続ける。これらを踏まえて、本連絡協議会もその任を終えたい。

### 7.2 事業主査連絡会(事業系5委員会の5主査、活性化委員会事業企画部会担当常議員 連絡会開催数2回)

従来、事業主査連絡会は開催が滞りがちであったが、事業系の5委員会と常議員会との情報交換を密にし、魅力ある事業企画を会員に提供することを目的に再開し、定期開催を目指した。連絡会の議題は、事業系各委員会の活動経過・予算執行状況報告、次年度活動計画・予算(案)審議、活動内容および内規の見直し、支部活性化委員会との連携にかかわる事項とした。今年度は準備不足のため、下期に2回開催したに留まり、事業系各委員会の活動の現状、ホームページ画面の修正および各委員会の内規見直し(案)について議論した。

### 7.3 総務委員会（主査：後藤 康明君 委員 5 名 委員会開催数 12 回）

昨年 4 月、支部事務局の独立と同時に発足した委員会であるが、独立に伴う財務管理および支部事務業務管理について、確認および検討を行う目的で毎月 1 回のペースで委員会を開催した。毎月の支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理・次年度予算策定について主に検討を行った。また、本部からの指導により既存の支部基金の規定作成および新基金の創設に関する検討も行った。一方、日本建築家協会北海道支部との合同事務所としての諸事項の調整(特に事務所の環境に関するもの)や合同企画についての検討も行い、これら事項を合同委員会において協議した。

### 7.4 活性化委員会

2001 年度から、支部長を委員長とする「支部活性化委員会」を常議員会に設置し、支部活動を活性化するための議論を行った。この委員会は「事業企画部会」および「会員サービス部会」から構成されている。

#### (1) 事業企画部会

- ・ 構成員：部会長；内田光彦君、副部会長；横山隆君 委員；駒木定正君、小室雅伸君、瀬戸口剛君、中岡正憲君、羽深久夫君、山田深君
- ・ 事業の企画など支部活動のあり方、総会のあり方を検討する。
- ・ 事業委員会活動の見直しおよび連絡調整を行う。
- ・ 担当委員会
  - 1) 事業主査連絡会（作品発表会、北海道建築賞、作品選集支部選考部会、支部共通事業設計競技審査委員会）
  - 2) 総務委員会（AIJ・JIA 事務所運営委員会、企画合同委員会）
  - 3) 特別委員会（JABEE）

#### (2) 会員サービス部会

- ・ 構成員：部会長；羽山広文君、副部会長；奈良謙伸君 委員；十河哲也君、真柄祥吾君、門谷眞一郎君、小林清繁君
- ・ 会員の状況把握、要望への対応
- ・ 会員の勧誘、情報提供のあり方、地区委員などネットワークの形成の検討
- ・ 担当委員会
  - 1) 学術委員会（専門委員会、特定課題、本部助成、文化関連事業）
  - 2) 研究発表会
  - 3) ホームページ管理委員会

### 7.5 ホームページ管理委員会（主査：羽山 広文君 委員 3 名）

本委員会は 2001 年 4 月 1 日より開設された当支部のホームページを管理することを目的としている。主な活動は以下となる。開設後 1 年間で約 4,700 件のアクセスがあり、支部の活動を広く公開することに貢献した。

- 1) ホームページの更新と他のホームページへの掲載依頼
- 2) 当支部ホームページへの掲載情報の決定、承認
- 3) 当支部ホームページへのリンクの承認
- 4) その他ホームページ管理に関し支部長が必要と認める業務

## 8 . 講習会・シンポジウム等の開催

### 8 . 1 本部主催講習会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
免震構造設計指針改定講習会	2001.9.14	ホテルノースシティ	和田 章君 他 2 名	33 名
建築基礎構造設計指針改定講習会	2001.10.11	ホテルノースシティ	梅野 岳君 他 3 名	88 名
鋼構造接合部設計指針講習会	2001.12.6	ホテルノースシティ	田沼吉伸君 他 2 名	36 名

### 8 . 2 講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
建築教育アクレディテーション研究会	2001.7.25	北海道大学工学部会議室	島田良一君 他 3 名	23 名
第 21 回建築作品発表会	2001.11.2	北海道立近代美術館	作品数28点	約 500 名
「近代建築の材料史を読むー煉瓦・タイル・鉄・ガラス」	2001.11.27	北海道北見工業高等学校	水野信太郎君	110 名
「超高層 R C 住宅の施工について」	2001.11.29	北海道名寄光凌高等学校	佐藤勇二君	91 名
「地震に強い住まいづくり」	2001.12.4.	北海道釧路工業高等学校	林 勝朗君	84 名
「人と構造力学の歩み」	2001.12.18	北海道帯広工業高等学校	上田正生君	89 名
国際フォーラム「積雪寒冷気候に対応した都市のデザイン」	2002.2.11	北海道大学学术交流会館	ノーマン・プレスマン他 10 名	68 名

### 8 . 3 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
01.5.18.~ 5.29	2000 年度道内大学・短大・高専・専門学校・工高卒業設計優秀作品展示会	インテリアセンター	約 200 名
01.5.23~25 6.1~3 6.8~10 11.12~16	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 北海道東海大学 釧路工業高等専門学校	
01.7.9 ~ 12.21	道内工高卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 13 校	

## 8.4 見学会

開催日	見学場所	解説者	参加者数	主催
2001.6.23	「建築散歩～おびひろ編～親子で巡る歴史的建造物の見学会」	委員会委員	26名	歴史意匠専門委員会
2001.7.9 ～10	「ドームはどのようにしてつくられるのだろう」	委員会委員	73名	都市計画専門委員会
2001.9.29	「北海道立林産試験場及び北海道立寒地住宅都市研究所建設現場」	委員会委員	24名	構造専門委員会
2001.11.12	「北海道立寒地住宅都市研究所(旭川)」	委員会委員	50名	環境工学専門委員会

## 9. 本部関連事業・その他

### 9.1 2001年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会(主査:豊嶋 守君 委員数5名 委員会開催数1回)

2001年度の支部共通事業設計競技審査委員会の支部審査委員は、染谷哲行・平尾稔幸・八代克彦・山田 深・豊嶋 守の5名で構成し、開催数は1回であった。委員会は10月18日、委員全員出席の5名で北海道支部事務局に於いて、午後6時より開催した。

本年の設計競技課題は「子供の居場所」であり、道内から3点・道外から1点の計4点であった。審査は前半各委員が作品4点を1時間を掛けて審査し、後半は各委員より活発な意見交換の後に、再び各々が厳正な審査の上投票した。その結果、神田案を支部入選と決定した。

支部審査委員: 染谷 哲行君、豊嶋 守君、平尾 稔幸君、八代 克彦君、山田 深君

(2) 2001年度支部共通事業設計競技

日本建築学会設計競技課題「子どもの居場所」

応募点数 4点

・支部入選作品 1点

神田泰伸君(北海道大学大学院工学研究科)共同制作者4名

(3) 審査講評

道内から3点、道外1点、計4点の応募作品があった。

作品傾向としては、小樽、函館、札幌といった都市・街並に絡めて子どもの居場所を提案したものが各1の計3点で、もう1点は子どもの遊び空間を具体的なモノとして札幌の川辺に提案している。なお、奇しくも都会派の3作品が道内でモノ派が道外からの応募作品であった。

果敢で新しい「子どもの居場所」であることをクライテリアにして議論は専ら都市派の3点に集中した。「小樽」作品では、東西にのびるアーケード街の風穴のような<貫入>を加えることによって小樽の都市構造を意識させるような新たな視点の導入を目論んでいる。「函館」作品は、港湾地区の使われなくなった倉庫を取り上げ、単独では機能しなくなった諸々の要素(海・山・住宅・伝統)のアッサンブリ-による街の再生が子どもの居場所につながるとしている。「札幌」作品では、子どもの成長過程にともなうテリトリー意識と移動手段の変化をグリッド状の都市構造の上に表現している。以上3点はそれぞれが新たな提案を含んではいるが設計主旨と図面内容との乖離がどの審査員からも指摘された。最終的には決戦投票を行い3:1:1でプレゼンテーションの力強さが評価された神田案を支部入選とした。

(文責・八代克彦)



## 9.2 作品選集支部選考の実施

### (1) 作品選集支部選考部会活動報告

学会本部にて開催された第1回作品選集委員会で、本年度の選考方針、方法等が協議され、作品掲載数が例年の60作品から100作品に改められた点を確認した。そこで、各支部への応募数に順じた支部推薦総数と内Aランク数の目安が決定された。第1回支部選考部会において、今年度の支部への応募総数が15作品あり、目安として支部推薦総数を11作品、内Aランク数を4作品とした。その後、支部選考は7月末から8月中旬にかけて複数委員が手分けして現地視察を行った。8月末の第2回支部選考部会にて、11作品を支部推薦し、下記の7作品が本部採用となった。最終的な掲載作品は、作品選集2002をご覧ください。

主査：大野 仰一君 委員：苧野 隆君、鈴木 雅彦君、豊嶋 守君、中原 隆一君、平尾 稔幸君、松橋 常世君、南出 孝一君、山田 深君

### (2) 作品選集支部選考の結果

支部応募作品総数 15点  
支部選考通過作品数 11点(本部採用7点)

- ・界川の家  
川人 洋志：北海道工業大学
- ・公立はこだて未来大学  
山本 理顕君：山本理顕設計工場
- ・芽室ふるさと歴史館  
後藤 達也君：アトリエブंक  
堀尾 浩君：アトリエブंक  
畠中 秀幸君：アトリエブंक
- ・石狩市民図書館  
下村 憲一君：環境設計
- ・小川原脩記念美術館  
鈴木 敏司君：アトリエアク  
井端 明男君：アトリエアク
- ・神内ファーム21センター施設  
塩津 一興君：大成建設設計本部  
高島 謙一君：大成建設設計本部
- ・札幌メディアパーク・スピカ  
伊坂 重春君：伊坂デザイン工房  
伊坂 道子君：伊坂デザイン工房  
渡辺 邦夫君：構造設計集団SDG

## 9.3 建築文化週間

### (1) 見学会「建築散歩 - 帯広編」(責任者：池上 重康君)

テーマ：「親子で巡る歴史的建造物の見学会」

趣旨： 帯広市および中札内村にある歴史的建造物を親子で巡り、先人たちが残してくれた遺産を後世に伝え、残すことの大切さを学び、21世紀のまちづくりを考えると共に、日本建築学会の活動への理解を深めてもらうことを趣旨とする。

日時：6月23日(土)10:00~15:30

見学先：宮本商産 旧大林邸 十勝信用組合(旧安田銀行帯広支店) 相原求一朗デッサ

ン館(旧三井金物店) 双葉幼稚園 中札内美術村[相原求一朗美術館(旧帯広湯)、  
坂本直行記念館] 真鍋庭園[真正閣(旧御便殿)] 十勝監獄石油庫

参加者：26名(大人20名、子供5名、幼児1名)

概要：支部歴史意匠委員会が主催する見学会「建築散歩」も11回目を迎え、今年度は道央圏を離れて帯広市、中札内村での見学会を企画した。また、テーマに示したように、親子一緒に参加して21世紀を担う子どもたちに関心をもってもらうことを狙った。当学会関係の広報はもとより、帯広市の広報誌や地元新聞等でPRを行ったが、意に反し「親子で参加」というのがネックとなって、当初見込んでいた55名という定員にははるかに及ばない参加申し込みとなった。そのため、貸切バスを借りることをやめて、事前交渉で共催を受諾していただいた帯広市のバス1台で見学会を行うことになった。

見学会当日は晴天となり、6月としては極めて高い気温(最高気温28 )の中、当委員会伊藤主査の挨拶の後、予定通り10時より見学を開始した。参加者には、当委員会が作成した見学のしおり(行程表と地図、歴史的建造物の解説文)、帯広市教育委員会が用意したパンフレット、そして協賛いただいた十勝毎日新聞社からタオル(暑かったので助かりました)が配布された。また、見学の解説には、帯広在住の当委員会小野寺委員、当委員会池上委員、中渡委員、西澤委員があたり、帯広市教育委員会鈴木主査にもお手伝いいただいた。

午前中は、帯広市内の歴史的建築物をバス移動と徒歩で見学し、十勝地方の煉瓦造の特色、地元建築士会の調査の過程で判明したことなどの興味深い解説に参加者は聞き入っていた。双葉幼稚園では、地元でも内部に入るのは初めてという人が多く、感嘆の声があがっていた。続いてバスで中札内村美術村に移動し、昼食時間とした。親子で参加した4組の家族は、持参したお弁当を広げてピクニック気分の一時を楽しんだ。中札内美術村の建築群を見学した後、バス移動で真鍋庭園、十勝監獄石油庫を見学。15時30分に帯広駅前前で解散した。

今回の見学会では、親子で参加した家族には大変好評であり、当初の目的は果たせたといえよう。参加者募集等の反省点は、次回の企画に活かしたいと考えている。

(2)「ドーム建築はどのようにして造るのだろうか? - 札幌ドーム見学会および実習」(責任者：瀬戸口 剛君)

札幌ドームが今年の6月にオープンしたのにあわせて、建築文化週間の企画として札幌ドーム見学会を行った。日程は、7月9日(月)と10日(火)の2日間、それぞれ午前の部と午後の部の計4回行われた。それぞれの部は定員20名で、定員計80名を募集したところ、73名の参加者があった。オープンして1ヶ月たらずの札幌ドームには、連日見学者が絶えず、一般のドームツアーは昼までに一日のチケットが完売するほどである。

今回は建築学会文化週間のために特別に見学コースがアレンジされ、一般見学者とは別のコースとなった。札幌ドームスタッフの案内のもと、一般見学者を後目にコースへと進んだ。見学内容は、ドーム内観客席、2階通路部分、ドーム内グラウンド付近、サッカー用天然芝付近、野球用ブルペン、展望台、ポウブリッジ、ドーム外構などである。また、会議室ではビデオ視聴と質疑応答があった。雪の処理のことなど、活発な質疑応答が交わされた。合計2時間程度の有意義な見学会であった。

なお、札幌ドームの見学にあたって、大成建設から参考資料の提供を、北海道大学大学院の後藤助教授からドーム建築の構造原理についてわかりやすく説明した資料を提供いただいた。記してお礼を申し上げる。

## 10. 建築関連団体との活動

AIJ JIA 合同企画委員会(運営委員会4名 企画委員会15名 開催数:11回)

運営委員会では合同事務所の運営に関わる諸事項について話し合いを行った。特に、事務所の環境についての協議を多く行い、管理事務所に対して改善の要求を行った。また、企画委員会では合同企画として、AIJの会員が主にJIA会員向けに行う建築セミナー(ジョイントセミナーA&J)を立案・実行した。その他、アールト展やトロ八展などの関連企画についても継続的に検討し、お互いの協力体制を構築した。

ジョイントセミナー

- 第1回 2002.1.18「住宅の温熱環境と安全性の評価」羽山広文君（北海道大学工学研究科）参加人数：30名  
 第2回 2002.3.11「コンクリートの調合計画・管理支援システム」浜 幸雄君（北海道大学工学研究科）参加人数：25名

11. 共催・後援（2001年度内に申請のあったもの）

期 日	名 称	会 場	主 催
共催			
2002.4.13 ~6.18	「アルヴァー・アールトの住宅」北海道展	北海道大学・遠友学舎ほか	「アルヴァー・アールトの住宅」北海道展実行委員会
2002.6.22 ~7.7	「素材とかたちを科学する = E・トロハ展」	札幌市青少年科学館	「素材とかたちを科学する = E・トロハ展」札幌展実行委員会
後援			
2001.6.6	「第1回都市計画講演会インフラ・デザインからトータルデザ	ホテルポールスター札幌	日本都市計画家協会北海道支部
2001.6.19 ~7.24	「コーポラティブでやってみよう」	ライラック・ホール	札幌市
2001.6.22	三沢浩「フランクロイドライト建築写真では見られない世界」	札幌市民会館	三沢浩「フランクロイドライト建築写真では見られない世界」実行委員会
2001.7.7 ~7.22	「宮脇檀の住宅 テーブルのまわりで」札幌建築展	札幌市立高等専門学校	札幌市立高等専門学校
2001.9.4 ~9.5	「ほくでんエネルギーフェア - 2001」	京王プラザホテル札幌	北海道電力(株)
2001.9.28	第26回北の住まい住宅設計コンペ「ともにくらす」		(社)北海道建築士事務所協会
2001.10.10	Dr.クリストフ・ブロックハウス講演会「アートによる地域再生 ドイツ、ルール鉱工業地帯の	S T Vホール	(社)日本造園学会北海道支部
2001.11.7	第12回旭川建築作品発表会	リハーサルホール	旭川まちなみ推進委員会
2001.11.21	JIA建築セミナー2001「モダニズムを超えて」	共済ホール	(社)日本建築家協会北海道支部
2001.11.28	「知っておきたい鉄骨造建築物の工事管理講習会」	ホテルノースシティ	(社)北海道建築士事務所協会

2002.1.24	札幌の都市居住を考えるシンポジウム「まちなか使いがやって	ライラックホール	札幌市
2002.2.1	JSCA北海道支部特別講演会「構造性能評価法の提案」「ひび割れのないコンクリートの作り	札幌グランドホテル	(社)日本構造技術者協会北海道支部
2002.3.6	セミナー「シックハウスと病院環境設備をめぐる」	かでの2.7	(社)空気調和・衛生工学会北海道支部
2002.3.20	美しい景観のくにづくりシンポジウム「はじめよう、みんなで作る美しい国」	かでの2.7	北海道
2002.3.4 ~3.13	「建築士のための指定講習会」	旭川市民会館 北海道中小企業会館 室蘭市中小企業センター 釧路市交流プラザさいわい 網走市サイクリングター	(社)北海道建築士会
2002.4.15 ~5.31	第22回「土木・建築図書特別展示即売会」	丸善南1条店	丸善(株)
2002.4.23 ~4.26	「イタリア建築フォーラム」札幌セミナー	北海道大学学术交流会館・北海道大学ファカルティハウス	イタリア建築フォーラム四都市連続セミナー実行委員会
2002.4.22	「再生粗骨材を用いたプレキャスト無筋コンクリート製品に関する」講習会	札幌サンプラザ	(社)日本コンクリート工学協会北海道支部

2001年度財産目録および収支決算報告

2001年度 財産目録

資産の部					資金および負債の部				
摘要	前年度末	本年度末	比較	摘要	前年度末	本年度末	比較		
基本財産				支部基金	7,410,000	7,410,000	0		
					災害調査	2,000,000	2,000,000	0	
	計	0	0						
運用財産	現金	85,811	85,984	173	金				
	預金	906,382	662,700	-243,682					
	普通預金	906,382	662,700	-243,682					
	未収金	0	0	0					
	仮払金	520,361	525,503	5,142					
	計	1,512,554	1,274,187	-238,367		9,410,000	9,410,000	0	
引当財産	基金引当預金	7,410,000	7,410,000	0	負債	未払金	0	0	0
	信託預金	7,410,000	7,410,000	0		仮受金	438,490	478,450	39,960
	災害調査預金	2,000,000	2,000,000	0		計	438,490	478,450	39,960
	普通預金	2,000,000	2,000,000	0	繰越金	前期繰越金	0	0	0
	計	9,410,000	9,410,000	0		当期過不足金	1,074,064	795,737	-278,327
	計	9,410,000	9,410,000	0	計	1,074,064	795,737	-278,327	
合計	10,922,554	10,684,187	-238,367	合計	10,922,554	10,684,187	-238,367		

2001年度 収支決算書

収入の部				支出の部					
摘要	予算額	決算額	増減	摘要	予算額	決算額	増減		
交付金	支部費	1,599,000	1,675,000	76,000	事業費	調査研究事業費	1,070,000	1,012,311	-57,689
	経営助成金	3,000,000	2,905,000	-95,000		表彰関係費	750,000	890,601	140,601
	事業交付金	1,724,000	1,742,000	18,000		設計競技費	40,000	9,285	-30,715
	支部事務所費	1,589,000	1,589,000	0		卒業設計展示費	100,000	48,854	-51,146
	支部事務費	300,000	300,000	0		教育文化事業費	500,000	358,232	-141,768
					シンポジウム等経費	2,800,000	3,186,277	386,277	
					委託調査研究費	0	1,572,755	1,572,755	
計	8,212,000	8,211,000	-1,000	計	5,260,000	7,078,315	1,818,315		
副次収入	シンポジウム等収入	2,400,000	2,456,960	56,960	特別事業費	特別企画事業費	700,000	700,000	0
	調査研究受託収入	0	1,850,300	1,850,300		計	700,000	700,000	0
	雑収入	600,000	771,093	171,093	会議費	総会費	200,000	165,650	-34,350
	収入利息	30,000	13,770	-16,230		役員会費	130,000	105,560	-24,440
				0		運営費	50,000	11,120	-38,880
計	3,030,000	5,092,123	2,062,123	計	380,000	282,330	-97,670		
前期繰越金	1,074,064	1,074,064	0	事務費	人件費	1,662,000	1,930,377	268,377	
基金取崩金	0	0	0		通信費	300,000	320,901	20,901	
					印刷費	50,000	57,540	7,540	
					消耗品費	100,000	148,825	48,825	
					雑費	514,000	893,250	379,250	
				事務所費	2,270,000	2,169,912	-100,088		
				計	4,896,000	5,520,805	624,805		
				基金積立金	0	0	0		
				予備金	1,080,064	0	-1,080,064		
小計	12,316,064	14,377,187	2,061,123	小計	12,316,064	13,581,450	1,265,386		
資産収入				資産支出					
	合計	12,316,064	14,377,187		2,061,123	合計	12,316,064	13,581,450	1,265,386
				収支差額		795,737			

監査報告

2001年度における社団法人日本建築学会北海道支部の業務および経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2002年5月7日

支部監事

支部監事

## 2002 年度事業計画方針案

### 1. 活動方針

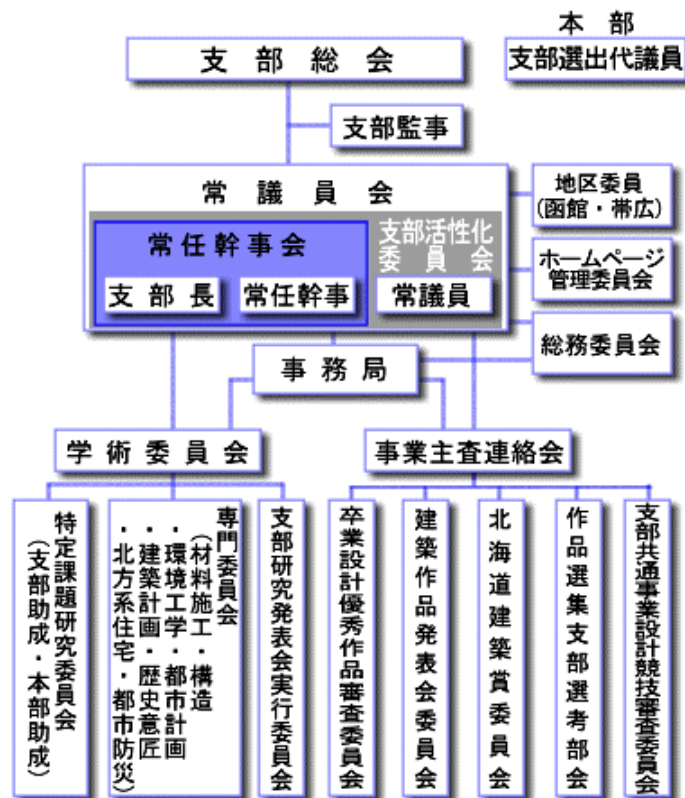
本年度においても建築界を取り巻く諸情勢は、残念ながら厳しい情勢にあり、その一端として全国的な傾向でもあるが、支部の個人・法人会員が減少してきている。

このような状況に対応し、本年度においてはこれまで以上に活動成果の社会的還元や会員サービスの充実を図るとともに、効率的な財政運営に努めてゆく必要がある。

このため、昨年開設した新事務所の有効活用やホームページの充実による会員への迅速かつ的確な情報提供を進めるほか、昨年に引き続き、活性化委員会において支部活動の今後のあり方を検討することとする。

また、支部活動の活性化を図るため既存の支部基金を組み替え、新たな基金を設置し、その有効活用により財政の安定化を図るとともに、各委員会においては、変化の時代における学会の社会的な役割を果たすため、不断に活動内容の見直しを進め「社会に開かれた学会」活動を目指すこととする。

### 2. 2002 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2002.6.1~2004.5.31)

石山 祐二君 北海道大学大学院工学研究科教授

新任常議員(2002.6.1~2004.5.31)

小林 孝二君 北海道開拓記念館学芸部学芸第二課長

斉藤 徹君 ドーコン研究開発部 P F I - P M 推進室長

佐藤 孝君 北海道工業大学建築工学科教授

佐藤 哲身君 北海学園大学工学部建築学科教授

鈴木 康志君 大成建設札幌支店建築部長

那須 豊治君 岩田建設技術開発室長  
長谷川雅浩君 北海道立北方建築総合研究所居住科学部住生活科長

支部長及び新任常議員は、支部役員選挙開票(2002年4月16日)により決定した。  
支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(印 委員長)  
後藤 康明君 田中 定信君 森 太郎君 羽山 広文君 奈良 謙伸君

留任常議員(2001.6.1-2003.5.31)

門谷 眞一郎君 北海道東海大学教授  
小林 清繁君 札幌工業高等学校教諭  
瀬戸口 剛君 北海道大学大学院工学研究科助教授  
中岡 正憲君 北海道建設部建築指導課長  
奈良 謙伸君 奈良建築環境設計室所長  
羽深 久夫君 札幌市立高等専門学校助教授  
山田 深君 室蘭工業大学講師  
( 印 常任幹事)

新任代議員(2002.4.1~2004.3.31)

大垣 直明君 北海道工業大学教授  
谷 吉雄君 北海学園大学教授  
吉野 利幸君 北海道立北方建築総合研究所主任研究員  
(2002年3月の本部選挙の結果、上記3名が選出された)

留任代議員(2001.4.1-2003.3.31)

秋山 孝君 (株)アトリエブク代表取締役  
伊藤 寛君 道都大学教授  
眞嶋 二郎君 北海道大学大学院工学研究科教授

新任支部監事(2002.6.1-2004.5.31)

井野 智君 北海道情報大学経営情報学部情報学科教授  
(2002年4月の支部常議員会で選出された)

留任支部監事(2001.6.1-2003.5.31)

粉川 牧君 北海道東海大学芸術工学部建築学科教授

地区委員(2002.6.1-2004.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰  
函館地区委員 山本 真也君 函館市都市建設部まちづくり推進課課長

以上五十音順



### 3. 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2002年5月17日(金)  
会場 北方圏センター国際会議場

常議員会 (複数回)

常任幹事会 (複数回)

選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

### 4. 学術委員会の活動 (主査: 星野 政幸君)

当支部学術委員会委員長は本部学術委員会の地域委員として参画し、支部の各専門委員会に向けて情報を伝達するとともに、学術委員会は各専門委員会からの調査研究の企画・計画及び活動の報告を受ける。また、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特定課題研究や本支部助成研究の選考、建築文化週間事業の企画立案と選考などを主たる業務としている。

第1回目: 各専門委員会・研究委員会の活動計画・予算配分、建築文化週間の実施計画

第2回目: 次年度建築文化週間企画・特定課題研究委員会の募集

第3回目: 支部研究発表会募集要項、特色ある支部活動支部推薦、大賞候補者推薦

第4回目: 来年度事業計画・予算案、建築文化週間課題・特定課題研究委員会の選考

#### 4.1 専門委員会の活動

材料施工専門委員会 (主査: 吉野 利幸君)

建築の材料施工に関する情報や意見の交換の他、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施工現場や特色ある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会の提案を行う。具体的な活動予定は以下のとおりである。

- 1) 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- 2) 建築学会標準仕様書 JASS5 および「寒中コンクリート施工指針・同解説」の改定に向けた調査研究および意見交換
- 3) 「コンクリートの調合計画・管理支援システム」講習会の開催
- 4) 建築物および施工現場の見学会の開催

構造専門委員会 (主査: 武田 寛君)

- 1) トロハ展への協力 6月22日~7月7日に開催。主にチャレンジ展で参加する大学、高校の受付窓口を担当してもらう。
- 2) 講演会 米国カルフォルニア大学/パークレイ校 Jack Moehle 教授が来道される機会に、支部または構造専門委員会主催での特別講演会の開催を希望します。演題は未定ですが、「アメリカにおける性能規定型設計法の開発の現状」または「太平洋地震工学センター (PEERC) における(ご自分の)研究」となりそうです。希望の日時は、5月15日(水)の午後です。
- 3) 見学会 9月末日に見学会を行いたい。見学する構造物等は6月の委員会で審議する。
- 4) 都市防災委員会との合同委員会 共通の話題等があるので2回位開催したい。

環境工学専門委員会 (主査: 福島 明君)

本委員会は27名の委員で構成され、委員会は年間5回開催予定である。学会活動の協議のほか、雪面反射を利用した室内空気質、昼光利用技術、ビルコミッションング、徒歩生活圏のまちづくり、など多様なテーマを設定して、研究活動を行う。これ等の活動を基に特定課題研

究への応募や、技術者や一般市民を対象としたセミナーを企画する。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君）

活動予定：「特色ある住民参加型の建築計画事例の発掘」をテーマに委員会活動を展開する。特に公共的な施設の計画においては、社会資源の蓄積を図る上でも、地域の人々に愛着を持って活用される建築の在り様が、旧知に勝って求められる時相となっているからである。主にネットワークを活用したフィールドワークを行うと共に、2～3の事例について実地の調査を計画している。2002年度は主に道東地域を対象とし、委員5名ほどで調査に当たる。（実地調査：2002年7月～9月）なお、ネットワークによるフィールドワークは、これを継続的に行う。

都市計画専門委員会（主査：瀬戸口 剛君）

都市計画委員会は2002年度も引き続き、中心市街地の活性化および住民参加のまちづくりをテーマに以下の活動を行う予定である。

- 1) アメリカサンフランシスコの都市計画視察ツアー
- 2) 建築学会大会2002（金沢）で行われる、本部都市計画委員会の研究協議会「中心市街地再生を見据えた地方都市の持続可能性」（8月3日（土）pm100-500）への協力
- 3) 中心市街地活性化に関する研究会
- 4) まちなか住まいを考えるシンポジウム

歴史意匠専門委員会（主査：伊藤 寛君）

道内各地における歴史的建造物の調査・発掘、および保存・活用等に積極的に関わり、建築学会として社会や住民に貢献できる方策等の検討、および行動を行う。また、委託研究の受託に向けて関係各方面との情報交換を深め、働きかけを行う。さらに、北海道における建築史学史研究へ向けた準備を始める。

建築文化週間企画は、「建築散歩 - 毛綱毅曠の建築を巡る（釧路編）」として10月に開催し、釧路市立博物館と連携をとって進める。展覧会等への協力として、「アルヴァー・アールトの住宅 - 北海道展」「アントニオ・ガウディ展（江別展）」「林雅子展」等に関わる。

北方系住宅専門委員会（主査：長谷川 寿夫君）

一般市民向けの普及活動と、新たな今後の研究内容について具体的に活動する。

- 1) 一般市民向けの普及活動として、委員が執筆した小冊子「雪休日の楽しみ - 良き発見型の成長へ -」の内容について、ともに考えてゆく集会を開催する。時期は10月ころとし、建築文化週間企画として申請中である。
- 2) 今後の研究内容として、次の5テーマについて小委員会またはWGを設けて研究に着手する。
  - ・地球環境を考えた取り組み
  - ・北の新しいライフスタイル（身近に「農」のある暮らしなど）
  - ・住宅の建て替え実態調査
  - ・社会資産としての住居の育成
  - ・徒歩生活圏のまちづくり
- 3) 学会本部・支部からの諮問に答える打ち合わせ委員会の開催

都市防災専門委員会（主査：岡田 成幸君）

WGを主体とした活動を予定している。学術企画WG：これまでの積雪寒冷地に関する防災に関する議論を展開し、新テーマの開発を行う。見学会企画WG：札幌市の「石狩平野北部構造調査」関連で、パイロサイズによる反射法・微動探査の現場見学、モエレ沼公園・ガラスのピラミッド現場見学を予定している。広報WG：当委員会HPの運営、本部災害本委員会のインターネットWGへの参加、防災ニュースの発刊を行う。意思決定問題WG：1991年に支部地震被害調査法研究委員会から出された「地震被害調査法マニュアル」の改訂を行う。避難問題WG：冬期に災害が発生した場合の避難行動に関わる積雪の影響（吹きだまりや凍結路面がある場合の避

難時間の遅延など)について検討する。また、そのような避難問題に対する行政機関の指導体制に関して検討する。

#### 4.2 特定課題研究委員会の実施

##### 研究テーマ自由公募制の研究委員会

(2001年度より)

##### 建築鉄骨技術教育研究委員会 (主査: 田沼 吉伸君)

- 1) 研究目的: 当委員会は道内の高専・工業高校における鉄骨技術教育に寄与する教材の提案を目的としている。
- 2) 研究方法: 2001年度に作成した模型教材とその施工図を用いた授業と副読本を用いた授業を行い、授業を行った各校生徒からのアンケート調査を行う。その結果の分析と各校の時間割と授業内容(シラバス)を検討し、当委員会としての教材に関する最終提案を行う。なお、当委員会提案の教材を用いた授業終了後に鉄骨製作工場の見学を行う高専・工業高校に関しては、別途生徒に対するアンケート調査を行う予定である。
- 3) 成果の予定: 日本建築学会北海道支部研究報告会、日本建築学会大会学術講演会、鋼構造シンポジウムなど

(2002年度より)

##### 積雪地昼光利用研究委員会 (主査: 齊藤 雅也君)

北海道のような積雪地で昼光を照明として利用する場合、積雪のポテンシャルを考慮して建築計画を行う必要がある。特に、建物外皮は優れた熱的性能が保証されているとともに、採光装置の機能が付加されていることが重要である。具体的には、北海道では雪面そのものの日照反射率が大きいので、積雪面を天然のライトシェルフと考えて建物外皮の形状を検討するなどである。本研究では、積雪面を光源とした室内照明の利用技術に関する海外などの先進的な事例を調査するとともに、昼光利用を考慮した建物外皮の形状に関する実験的検討、居住者の明るさ感調査を行うことによって、積雪地における昼光利用計画の基礎資料として整備するものである。

##### 北海道住宅エネルギー消費実態調査研究委員会 (主査: 藤原 陽三君)

近年、高断熱・高気密住宅の普及が著しいが、暖房空間の広がりや室内温熱環境の安定化や、それらによる住まい方の変化などにより、エネルギー消費が減少しない傾向がみられる。そこで、本研究では(財)北海道消費者協会・石油連盟によって実施されている本道の住宅用エネルギー消費実態アンケート調査結果などをもとに、道内の住宅におけるエネルギー消費実態を把握し、本道のエネルギー消費の大きな部分を占める住宅用エネルギー消費の省エネルギーの方向性を明らかにすることを目的とする。

#### 4.3 本部からの支部助成金による研究委員会

##### 旧師団施設調査研究委員会 (主査: 川島 洋一君)

2002年度の研究目的は、前年度の成果を基に現自衛隊美幌駐屯地内の旧海軍の旧美幌航空隊施設を対象として調査を実施し、予備調査で現存が明らかになっている旧軍の木造施設(現洗濯棟)の実測調査を中心として、航空隊本部のRC造建物の構造、意匠についても調査を行い旧師団施設としての特徴を考察し、同時に隊内に設置されている資料館での資料収集も実施して、解体された各施設の状況を明確にすることである。また、札幌の月寒の旧連帯施設、十勝沿岸に現存するトーチカの状況あるいは現自衛隊名寄駐屯地での資料収集を実施して、旧第7師団の北海道内各地に分散していた各施設の概要を明らかにする予定である。特定課題研究としての最終年であることから、この2年間のまとめとして旭川の北鎮館での多くの収集資料での成果も含めて、研究全体の考察を行い報告書として公表する。また支部研究発表会でも発表する。

## 5. 支部研究発表会の活動

### (1) 支部研究発表実行委員会の開催(主査:桜井 修二君)

2002年度の委員の任期としては、2001年7月2日(第74回研究発表会(北大)翌日)~2002年6月30日(第75回発表会最終日)である。したがって、2002年度の第75回発表会実施へ向けての委員会活動は既に開始されている。

支部研究発表会のありかたに関する今後の方向について検討するよう、絵内学術委員長より要請があった。これを受けて、WGを立ち上げた。

1) WGメンバー: 絵内学術委員長、桜井主査、研究発表会実行委員会のうち継続委員9名、野口元主査

2) 委員会開催数: 2回(2001年12月19日、2002年1月31日)

3) 議事: 開催期日、2日制、原稿種別、特別企画の4項目について議論し、その結果を学術委員会へ報告した。まとめは、次のとおり。

第76回(2003年、北大で開催予定)まで、現行の方式を踏襲し、その長所・短所を見極める。ただし、第76回では1日開催も選択肢としてあり得る。

第76回のC原稿については、現行の自由テーマによる方式に加え、事前にテーマを設定する方式の2本だてとする。テーマは支部研実行委員会が発案する。

### (2) 支部研究発表会の開催予定

1) 原稿提出締切: 2002年4月18日(木)12時支部事務局必着

2) 開催期日: 2002年6月29日(土)~30日(日)

3) 会場: 室蘭工業大学

\*原稿募集の会告記事を、建築雑誌2001年12月号・2002年1月号および支部HPへ掲載した。

## 6. 表彰

### 6.1 北海道建築賞

#### (1) 賞の概要

建築作品をささえる「先進性」、「規範性」、「洗練度」の3つの視点から見学、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰を行い、より一層の建築創作活動の促進を図る。

#### (2) 北海道建築賞委員会の実施

上記の方針で委員会を実施する。

### 6.2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)

#### (1) 賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

#### (2) 卒業設計優秀作品審査委員会の実施(主査:鳥海 良晴君)

2002年度 道内大学・短大・高専・専門学校・工高卒業設計優秀作品の審査方針を協議し、審査を実施する。

### 6.3 優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

## 7. 建築作品発表会の実施

### (1) 建築作品発表会委員会の開催

2002年度の目標は、2001年度でつくった新たな筋道をどのように定着し、さらに改善してゆくかである。作品集は好評を博しているため、現在の方向を堅持していくこととする。今年の大きな目標は、発表形式の改善である。2001年度より1日をかけて発表する形式から、コンパクトで集中できるようにということで半日の発表に切り替えた。今年は、その中で作品集掲載のみと作品集掲載+発表という2カテゴリーに分け、発表数を減らし討論時間を長く取るなどの発表手法を検討し、内容の充実を図ることを目標とする。

また、広く作品の公募を行うため、支部のHPを活用して作品のエントリーができるフォームをつくることを検討する。

### (2) 建築作品発表会の開催予定

建築関連3団体の協力を得て、第22回作品発表会を行う。

- ・開催時期：11月上旬（予定）
- ・開催場所：道立近代美術館（予定）

## 8. 特別委員会の活動

### 8.1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査、活性化委員会事業企画部会担当常議員）

本連絡会は事業系5委員会と常議員会との情報交換を密にし、事業内容の充実と効率化、魅力ある事業企画を会員に提供することを目的としている。2002年度は、4回程度開催し、活動経過・予算執行状況の報告、活動内容及び内規の見直し、次年度活動計画・予算案の検討を行う。また、支部活性化委員会と連携して、支部活動の活性化の為に議論も併せて行う。

### 8.2 総務委員会（主査：後藤 康明君）

本委員会の目的を遵守して支部運営の健全性を維持する。昨年同様に財務管理・事務局業務管理について毎月1度の頻度で委員会を開催し検討する。昨今の経済状況により支部の財政状況が悪化していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進めるつもりである。さらに、事務局業務の効率化、会議室の有効利用についても適宜検討を継続的に行っていく。また、日本建築家協会北海道支部との合同事務所の運営についても検討を行う。

### 8.3 活性化委員会

本部会は、学会支部活動の原点に戻り、支部で実施する事業を活性化するための議論を行い、支部活動方針に活かすことを目的としている。2002年度は、再度、継続事業の中身の再検討、新規事業の企画立案をとおして、支部活動のあり方や活性化方策を検討する。また、事業主査連絡会と常議員会の橋渡し機能を、さらに強化する。

### 8.4 ホームページ管理委員会（主査：長谷川雅浩君）

本委員会は当支部のホームページの維持・管理することを目的とする。2002年度は、情報の伝達だけではなく、会員からの情報を受信できる機能を付加するなど、双方向の情報伝達を可能となるようにホームページの改良を進める。また、委員会活動状況および各種事業の案内・成果を迅速に広めるため、コンテンツの充実を図る。

## 9 . 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体および関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

### 9 . 1 本部主催講習会

2002 年度本部主催支部共通事業講習会を開催する。

### 9 . 2 講演会

日本建築学会・仙田満会長の北海道支部訪問を機会に講演会を開催する。日時は 2002 年 6 月 21 日（金）15：30 から 17：15 まで。会場は「かでの 2 . 7」。

### 9 . 3 展示会

卒業設計優秀作品および本部主催設計競技入選作品の展示会、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

### 9 . 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

## 10 . 本部関連事業・その他

### 10 . 1 2002 年度支部共通事業設計競技の実施

2002 年度の支部共通事業設計競技審査委員会の活動は、本年は 7 月上旬に実施される予定である。支部共通事業である設計競技の審査を行い、支部入選案を選考する。

### 10 . 2 作品選集支部選考部会

昨年度は、掲載作品が増え、掲載料が値下げされたにも関わらず、全支部での応募総数はさほど増えなかった。今年度は、支部会員に周知徹底を図り、より多数の応募に期待する。

### 10 . 3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の 3 件を予定している。

- 1) 見学会「建築散歩 - 毛綱毅曠の建築を巡る - 釧路編」(責任者：西澤 岳夫君)
- 2) 「素材とかたちの科学 = 建築と E . トロハ展 - 」(責任者：粉川 牧君)
- 3) 「雪休日の楽しみ - 北国のこれからのライフスタイルを考える」(責任者：長谷川寿夫君)

## 11 . 建築関連団体との活動

### AIJ JIA 合同運営・企画委員会

開所から 1 年を経過した合同事務所について、この 1 年間の反省事項を明らかにして改善すべき点を洗い出し、継続的に協議を行う。合同企画委員会では、昨年度からの継続審議事項である北海道内にある建築関連の団体が行う企画の把握を行い、お互いに周知するなどのシステムを構築する方策を協議する。また、昨年度同様に両団体の関連行事などの企画について継続的な話し合いの場とする予定である。

## 審議事項

### 1. 日本建築学会北海道支部学術振興基金の新設

#### 日本建築学会北海道支部学術振興基金規定(案)

##### 第1条(名称)

この基金は日本建築学会北海道支部学術振興基金(以下「学術振興基金」という)と称し、社団法人日本建築学会北海道支部内におく。

##### 第2条(目的)

「学術振興基金」は、北海道支部における建築に関する研究や文化活動の助成を目的とする。

##### 第3条(基金)

一般会計に余剰金がある場合に、常議員会において「学術振興基金」への充当を審議し、総会の承認をもって行う。

##### 第4条(基金助成事業)

「学術振興基金」は、北海道支部に所属する日本建築学会正会員を代表者(以下、活動を行う代表者という)とする組織が行う、次に示す学術研究活動・教育文化活動等に必要な費用の助成を行う。

- (1)建築に関連する萌芽的研究活動。
- (2)会員や一般市民を対象とした建築に関連する教育文化活動。
- (3)上記以外で支部長が認めた学術研究・教育文化に関する活動。

##### 第5条(申請)

「学術振興基金」の申請は、活動を行う代表者が活動内容と収支予算明細を所定の申請書に記入し、別に定める期日までに支部事務局へ提出することにより行う。

##### 第6条(承認)

第5条の申請があった場合に、支部長は常議員会を開催して承認に関する審議を行い、事業開始予定日の1ヶ月前までにその結果を活動を行う代表者に通知する。

##### 第7条(活動報告)

活動を行う代表者は、事業の終了後1ヶ月以内に活動報告および会計報告を支部事務局へ提出しなければならない。但し、活動が複数年にわたる場合には、各事業年度末に中間報告およびその年度の会計報告を提出する。

##### 第8条(運営)

「学術振興基金」の管理運営は支部長が行う。

##### 第9条(報告)

支部長は「学術振興基金」による活動内容を支部総会において報告する。

##### 第10条(付則)

- (1)本規定に定めない事項は細則による。
- (2)本規定は2002年6月1日から施行する。

### 2. 日本建築学会北海道支部災害調査研究基金規定の制定

#### 日本建築学会北海道支部災害調査研究基金規定(案)

##### 第1条(名称)

この基金は日本建築学会北海道支部災害調査研究基金(以下「災害調査研究基金」という)と称し、社団法人日本建築学会北海道支部内におく。

##### 第2条(目的)

「災害調査研究基金」は、北海道において発生する建築に関連する災害の初動調査活動への支援を目的とする。

##### 第3条(基金)

一般会計に余剰金がある場合に、常議員会において「災害調査研究基金」への充当を審議し、総会の承認をもって行う。

第4条（基金助成事業）

「災害調査研究基金」は、支部に所属する日本建築学会会員を代表者(以下、代表者という)とする組織が行う災害調査活動に必要な費用の助成を行う。

第5条（申請）

「災害調査研究基金」の申請は、代表者が調査内容と収支予算明細を申請書に記入して支部事務局に提出することにより行う。

第6条（承認）

第5条の申請があった場合に、支部長は常議員会を開催して承認に関する審議を行い、速やかにその結果を代表者に通知する。

第7条（緊急を要する調査）

緊急を要する調査を行う場合は、代表者が活動の概略と予算のみを記載する簡易申請をし、常任幹事会の判断により承認を行うことが出来る。尚、この場合にも常議員会において報告し承認を得るものとする。

第8条（調査報告）

代表者は調査終了後1ヶ月以内に調査報告および会計報告を支部事務局へ提出しなければならない。但し、調査が複数年度にわたる場合には、各事業年度末に中間報告およびその年度の会計報告を提出する。

第9条（運営）

「災害調査研究基金」の管理運営は支部長が行う。

第10条（報告）

支部長は「災害調査研究基金」による活動内容を支部総会において報告する。

第11条（付則）

本規定は2002年6月1日から施行する。

### 3. 日本建築学会北海道支部職員退職積立金の新設

#### 日本建築学会北海道支部職員退職積立金規定(案)

第1条（名称）

この基金は日本建築学会北海道支部職員退職積立金（以下「職員退職積立金」という）と称し、社団法人日本建築学会北海道支部内におく。

第2条（目的）

「職員退職積立金」は、北海道支部事務局職員に給付する慰労金を積み立てることを目的とする。

第3条（基金）

「職員退職積立金」は、毎会計年度の最終月に一般会計から一定の額を積み立てることとする。

第4条（慰労金の給付）

「慰労金」は別に定める条件を満たした事務局職員に対して、優れた勤務業績を納めた時や職員の退職時などに支給する。

第5条（承認）

「職員退職積立金」から慰労金を給付する場合には、常議員会の承認を得ることが必要である。

第6条（管理運営）

「職員退職積立金」の管理運営は支部長が行う。

第7条（報告）

支部長は総会において「職員退職積立金」の会計報告を行う。

第8条（付則）

(1)本規定に定めない事項は細則による。

(2)本規定は2002年6月1日から施行する。



2002 年度収支予算案

収入の部				支出の部					
項目	予算額	前年度	増減	項目	予算額	前年度	増減		
交付金		7,332,000	8,212,000	-880,000	事業費		5,280,000	5,260,000	20,000
	支部費	1,553,000	1,599,000	-46,000		調査研究事業費	950,000	1,070,000	-120,000
	経営助成金	2,850,000	3,000,000	-150,000		表彰関係費	750,000	750,000	0
	事業交付金	1,040,000	1,724,000	-684,000		設計競技費	40,000	40,000	0
	支部事務所費	1,589,000	1,589,000	0		卒業設計展示費	40,000	100,000	-60,000
	事務費	300,000	300,000	0		教育文化事業費	700,000	500,000	200,000
						シボジウム等経費	2,800,000	2,800,000	0
				委託調査研究費	0	0	0		
				特別事業費	0	700,000	-700,000		
				特別企画事業費	0	700,000	-700,000		
副次収入		3,010,000	3,030,000	-20,000	会議費		280,000	380,000	-100,000
	シボジウム収入	2,400,000	2,400,000	0		総会費	160,000	200,000	-40,000
	調査研究受託収入	0	0	0		役員会費	70,000	130,000	-60,000
	雑収入	600,000	600,000	0		運営費	50,000	50,000	0
	収入利息	10,000	30,000	-20,000					
繰入金		5,195,737	1,074,064	4,121,673	事務費		5,390,000	4,896,000	494,000
	前期繰越金	795,737	1,074,064	-278,327		人件費	2,040,000	1,662,000	378,000
	基金取崩金 (支部基金)	4,400,000	0	4,400,000		通信費	300,000	300,000	0
						印刷費	50,000	50,000	0
						消耗品費	150,000	100,000	50,000
						雑費	580,000	514,000	66,000
						事務所費	2,270,000	2,270,000	0
					予備金	4,587,737	1,080,064	3,507,673	
					予備金	587,737	1,080,064	-492,327	
				基金積立金 (学術振興基金)	4,000,000	0	4,000,000		
合計	15,537,737	12,316,064	3,221,673	合計	15,537,737	12,316,064	3,221,673		

基金・積立金内訳

2001年度末		2002年度末	
支部基金	7,410,000	支部基金	3,010,000
災害調査基金	2,000,000	災害調査研究基金	2,000,000
		学術振興基金	4,000,000
基金計	9,410,000	基金計	9,010,000
		職員退職積立金	60,000
		積立金計	60,000

基金の差額40万円は、2002年度事業助成分として一般会計に繰り入れた。具体的には、支出の部  
で調査研究事業費および教育文化事業費へそれぞれ20万円ずつ配分した。

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿

2002年3月末現在

法人正会員

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00502-83	1	荒井建設㈱	00547-58	2	戸田建設㈱
00503-64	1	伊藤組土建㈱	00552-83	2	飛鳥建設㈱
00505-34	2	岩倉建設㈱	00553-56	1	巴コ-ポレ-ション
00505-50	2	岩田建設㈱	00557-04	1	日鐵セメント㈱
00512-71	1	㈱大林組 札幌支店建築工務部	00614-45	1	日本デ-タサ-ビス㈱
00512-89	3	大林組	00555-50	1	西松建設㈱
00512-97	1	大林組	00560-51	1	日本設計
00515-48	1	岡設計	00561-82	1	日本防水総業
00515-72	1	岡田設計	00617-89	1	画工房
00567-92	2	北電興業	00625-81	1	アトリエ・アク
00585-32	1	加藤組土建 総務部総務課	00586-89	1	北農設計センター
00517-00	5	鹿島建設㈱	00597-74	1	㈱総研設計
00519-38	1	上遠野建築事務所	00598-55	1	王子不動産㈱北海道釧路営業所
00565-64	1	フジタ	00611-61	1	曾澤高圧コンクリ-ト技術部
00584-43	1	萩原建設工業 建築部	00614-38	1	㈱ホーム企画センター 総務部
00523-40	1	釧路製作所	00568-07	1	㈱ドーコン
00523-82	1	熊谷組	00618-60	1	北海道建築設計監理㈱
00530-03	1	札幌日総建	00568-15	2	北海道コンクリ-ト工業
00621-75	1	マル 建築設計	00568-23	2	北海道日建設計
00531-84	1	清水建設㈱	00616-32	1	北方住文化研究所
00571-46	3	丸彦渡辺建設㈱	00569-04	1	前田建設工業㈱
00540-41	5	大成建設㈱	00573-66	1	㈱三菱地所設計
00575-10	1	宮坂建設工業	00673-29	1	㈱西塚構造事務所
00544-49	2	竹中工務店	00673-45	1	桜井鉄鋼㈱
00538-83	2	田中組	00674-50	1	㈱中原建築設計事務所
00542-37	1	大和ハウス工業㈱	00674-76	1	㈱間組 札幌支店建築部
00545-54	3	地崎工業	00577-14	1	山下設計

賛助会員

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00577-80	1	吉田建築設計事務所	00814-70	3	北海道電力㈱
00650-00	1	松村組札幌支店	00810-06	1	道都大学図書館
00656-02	1	坂本建設㈱	00813-49	1	㈱NTT ファシリティーズ
00645-91	1	豊平製鋼㈱			北海道支店営業推進部
00651-49	1	アイエイ研究所	00815-01	1	北海学園大学 図書館
00651-65	1	北文創	00815-19	1	北海道中央工学院専門学校
00651-99	1	國枝千秋建築設計事務所	00681-97	1	青山工学専門学校札幌校
00652-54	1	新太平洋建設㈱			
00659-11	1	㈱都市設計研究所			
00662-76	1	㈱松原組一級建築士事務所			
00666-08	1	光道路サ-ビス㈱ 構造計算課			
00674-84	1	五洋建設㈱ 札幌支店			
00549-52	1	東急建設㈱ 札幌支店			
00683-75	1	三和シャツタ-工業 北海道ビル建材支店			
00684-22	1	㈱北海道サンキット			
00684-14	1	㈱三晔ブレコンシステム			
00685-29	1	不二サッシ㈱ 北海道支店			
00697-87	1	夢創計画室			
00699-81	1	田畑建設札幌支店			
00702-09	1	環境計画コンサルタント			
00704-45	1	アトリエ・ブク			
00704-09	2	北海道建築指導センター			

社団法人 日本建築学会北海道支部  
〒060-0042 札幌市中央区大通西7丁目2  
ダイヤビル 2階  
TEL 011-219-0702 FAX 011-219-0765  
E-mail: [aij-hkd@themis.ocn.ne.jp](mailto:aij-hkd@themis.ocn.ne.jp)  
<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>